

# #3

“あなたがたの父が  
憐れみ深いように、  
あなたがたも憐れみ  
深い者となりなさい”

(ルカ6・36)



ただ一つ  
の目標：  
どんな人も  
愛すること

福音記者ルカによれば、イエスは「山上の垂訓」(真福八端)を説いたのち、すべての人を自分の兄弟として愛し、敵でさえもそのように愛しなさいと語り、それまで誰もしたことのない、新しい生き方をすすめました。

イエスは、説明してくれます。私たちはみな、唯一の父をもつ兄弟だと。御父は、いつもご自分の子らを探し求めておられると。



神さまは父親として、  
私たちと関わることを望み、  
責任ある生き方をするよう  
呼びかけています。

同時に神さまの愛は、私たちを手塩にかけ、癒し、養ってくれる愛です。慈しみに優しくにあふれた、お母さんの愛の姿でもあります。

これこそ、弱さを持った私たちすべての人間に注がれている神さまの憐れみです。神さまはさらに、社会から排斥され、片隅に追いやられた人たちを、特に心にとめられます。



憐れみは人間の心を満たす愛で、他の人たちにも注がれます。近所の人、知らない人、周りの社会にも。



もし誰かを傷つけてしまったなら、  
勇気を出して  
あやまること。  
そしてまた  
前進すること。  
これは大きな尊厳  
ある行動です。



そして、誰かに  
傷つけられたなら、その人を赦  
してみましょ。その人に対して、  
心を広げること  
で、傷を治す  
チャンスになる  
でしょう。

私たちもキリスト者として、  
世の流れに逆らう証しを示す  
ことができます。  
傷ついた関係、あるいは切れ  
てしまった関係を、築きなお  
すことから始めましょう。



## 僕ら の 経験:

フィリピンより

「父親が殺された時、  
私はたった11才でした。  
当時は貧しかったので、  
正当な裁判もしてもら  
えませんでした。

大きくなってから、父の死について、ちゃんと裁判をしてもらえるようにと、法律を学びました。

でも神さまは、別のご計画を私の上にもっておられました。ある同僚に、福音を真剣に生きる人たちの集まりに誘われました。こうして私も福音を生き始めました。

ある日、『敵を愛しない』というみ言葉を生きられるよう教えて下さいとイエスに祈りました。私の心は、父を殺した人たちへの憎しみにさいなまれていたからです。

翌日仕事で、思いがけず、父を殺害したグループのボスと行き会いました。私は笑顔であいさつし、彼の家族は皆元気かとたずねました。彼は非常に驚いていましたが、それ以上に驚いたのは私自身でした。



私の中にあつた憎しみの塊が溶け、愛に変えられていきました。これはほんの最初の一歩でした。愛は、新しいものを生み出す力があります!

私はこのグループの一人ひとりに、私の赦しを受けとってもらいたいと思いました。彼らと関係を築きなおし、神様の彼らへの愛を証しするために、弟と一緒に会いに行きました。

その中の一人は、自分の犯した罪の赦しを乞い、さらに自分と家族のためにも祈ってほしいと願いました。